２１世紀の日本のかたち（７０）

国立追悼空間−平成の森づくり

戸沼幸市
＜(一財)日本開発構想研究所 代表理事＞

１．傘寿を迎えられた天皇陛下の平和への願い

「80 年の道のりを振り返って、特に印象に残っている出来事という質問ですが、やはり最も印象に残っているのは先の戦争のことです。私が学齢に達した時には中国との戦争が始まっており、その翌年の 12 月 8 日から、中国のほかに新たに米国、英国、オランダとの戦争が始まりました。終戦を迎えたのは小学校の最後の年でした。……＜中略＞……戦後、連合国軍の占領下にあった日本は、平和と民主主義を、守るべき大切なものとして、日本国憲法を作り、様々な改革を行って、今日の日本を築きました。戦争で荒廃した国土を立て直し、かつ、改善していくために当事の我が国の人々の払った努力に対し、深い感謝の気持ちを抱いています。……＜中略＞……戦後 60 年を越す歳月を経、今日、日本には東日本大震災のような大きな災害に対しても、人と人との絆を大切にし、冷静に事に対処し、復興に向かって尽力する人々が育っていることを、本当に心強く思っています。」(参考 1)

平成 25 年 12 月 23 日、傘寿を迎えられた天皇の宮内記者会でのお言葉には、昭和８（1933）年生まれの私にとっても生まれた時代が全く重なっており、素直に共感できるものです。

明治維新を起点とする近代日本の歴史は、明治元〜45 年（1868〜1912）、大正元〜15 年（1912〜1926）、昭和元年〜64 年（1926〜1989）、そして平成と、歴代天皇の在位の年月によって括られて語られますが、西暦による世界史年代を重ねつつ、日本の時代的特徴を現すものとなっております。そして、奇しくも 20 世紀と 21 世紀を跨いでいる平成年代は、世界史の激動と重なって日本がいかなる 21 世紀国家をめざすかが問い直される日々であると実感させられます。

２．靖国問題

昨年末、暮れも押し迫る 12 月 26 日、安倍首相の突然の靖国神社参拝には驚かされました。21 世紀日本のリーダーとして、個人的理念，信条はともかくとして、不適切ではないかと危惧の念を抱かされました。21 世紀初頭、北東アジア、とりわけ中国、韓国と日本を取り巻く情勢は不安定であり、「尖閣」「竹島」問題も政治的に賢く決着してほしいと多くの人が願っているこの時期に、近隣関係国の神経を逆撫でしてしまう行動に対し、早速、中国や韓国は反発しております。

さらに北東アジアの有り様に深く関わって

いるアメリカが今回の件に「失望した」と異例の強いコメントを出し、ＥＵも、国連も批判していると報じられております。

靖国神社には、幼少期ともに暮らしていた私の従兄も祀られております。従兄は 1943 年 5 月のアッツ島での激しい戦闘で戦死したのです。当事、軍神となったのだと聞かされましたが、子供心に名状しがたい沈んだ気分になったことを覚えております。A級戦犯が合祀されている靖国神社の場合、素直にここに手を合わせる気持ちにはなれない人も多いはずです。

先の戦争によって、日本人の犠牲者は 310 万人（「千鳥ヶ淵戦没者墓苑創建 50 年史」による）といわれております。この先人への慰霊と平和への願いを込めて祈りを捧げる国民的場が我が国にあってしかるべきです。

天皇陛下は 1975（昭和 50）年 11 月 21 日を最後に、靖国神社への親拝はされておられません（A級戦犯合祀：1978 年）。

今回の事態は、中国、韓国の強い反発を招き、首脳間の対話のチャンネルを閉ざし、北東アジアの平和共存、相互の信頼構築を難しいものにしたと言わざるを得ません。

３．国立追悼空間－平成の森づくり

平成 25 年 9 月 8 日、2020 年の夏季オリンピック・パラリンピック開催都市が東京に決まったのは日本にとって明るいニュースでした。明治神宮の森に隣接して新国立競技場の建設が決まり、21 世紀初頭の日本の予定表にも一つの刻みが付けられることになりました。

そして、2020 年、東京オリンピック・パラリンピックの開会式では、世界に向かって歴史と伝統に続く「21 世紀の日本のかたち」が平和に重ねて、希望をもって語られることでしょう。

４年に一度の東京オリンピック・パラリンピック、いわば地球村の大運動会では選手はもとより世界中の人々が、地球の平和を願いつつ、会場である東京「都心の森」の中で国別対抗戦で大いに盛り上がることでしょう。（参考 2）

この構図に加えて私なりの一つの願いを言えば、東京五輪を記念して、これまでしばしば語られてきた国立追悼施設の建設を、この際、国策として決めてはどうか。（注）

国立追悼施設の場所は、「都心の森」と一体化させて千鳥ヶ淵の戦没者墓苑の拡充か、海の森オリンピック・パラリンピック会場の活用か、或いは多摩丘陵はどうであろうか。

これを平成時代を記念する「平和の森」として創りだしてはどうか。（参考 3）

日本の戦後史が引きずってきた靖国問題の解決策として、国民も海外の指導者も人々も、わだかまりなしに参拝できる空間を、2020 年、「平成の森」として建設することを宣言してはどうか。

かつて、日本全国からの献木を含む 12 万本以上の立木により創り上げた明治神宮の森づくりに倣い、常緑の森をイメージして、平成という時代をこの森に象徴させ、天皇陛下も、市民、国民、そして世界の人々も訪れる大きな物語の中の鎮守の森とすることができないか。（参考 4）

平成 26 年、2014 年正月の私の願いです。

【引用・出典等】

参考1)「天皇陛下お誕生日に際し（平成25年）　天皇陛下の記者会見」宮内庁、平成25年12月18日

参考2)「都心の森の中の2020年東京オリンピック・パラリンピック」理事長の部屋（66）

参考3)「東京の姿形について考える–海と森のコスモロジー」理事長の部屋（19）

参考4)「緑地保全の生態学(UPバイオロジー 40)」井手久登、東京大学出版会　1980年6月

注）

- 2002年「追悼平和祈念のための記念碑等建設の在り方を考える懇談会」政府 福田康夫官房長官の私的諮問機関
- 2005年「国立追悼施設を考える会」超党派の議員連盟 自民、民主、公明が約100名
- 2009年「靖国に代わる国立追悼施設建設へ」民主党 有識者懇談会設置
- 2013年12月 民主党、公明党　「追悼施設建設が最善の選択」であると表明

(2014. 01. 15)